

## コラム

## 本の広場 -新しい新着図書コーナー-

まつやま ゆうな  
松山 祐奈

(理工学研究科修士課程2年)

皆さんは、理工学メディアセンターの新着図書コーナーを利用したことはあるだろうか。「え、そんなのあったっけ…？」そう思ったそのあなた。入口正面をご覧ください。新着図書コーナーは確かにそこに存在している。しかし立ち寄りどころか存在にすら気付かない学生も多いのではないだろうか。このコーナーをより多くの学生で賑わうものにすべく、理工学部システムデザイン工学科ホルヘ・アルマザン研究室が新たな新着図書コーナーを設計した。

まず、既存の新着図書コーナー（図1）の問題点を整理しよう。主な問題点は、先程述べたように来館した学生の興味を惹きづらいことだ。その理由は、本棚の高さが目線より低く、その存在に気づきづらいえ本も取りづらいこと、本が表紙でなく背表紙を向けて置かれていることだと思われる。そのため興味を惹き、目線の高さに本の表紙が見えるデザインを目指し、模型による様々な検討を行った（図2）。形、配置、予算、素材感などについてメディアセンター担当者の方と議論した末、本のある空間を楽し



図1 既存の新着図書コーナー

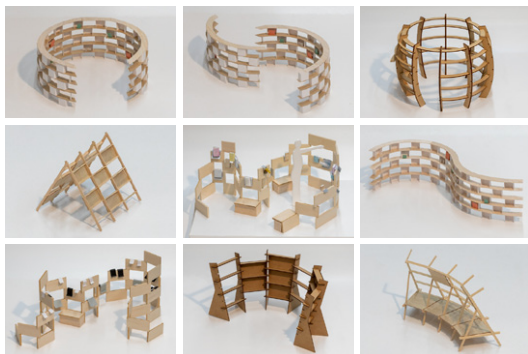


図2 形の検討



図3 完成した新着図書コーナー



図4 レイアウトの可変性（模型）

んでもらいたいという思いから図3のような本棚が完成した。

コンセプトは、「本に囲われた空間」と、様々なレイアウトや本の配置を可能にする「可変性」である。木のパネルをボルトでつなぐ構造にすることで、本棚のレイアウトを自由に変形できるようにした（図4）。これによって、ニーズに合わせて新着図書コーナーの空間を変化させることができる。

また、本の配置も自由に設定できる。本棚内の好きな場所に掛けられるカスタムメイドのブックスタンドを設計した。これによってそれぞれの本に合わせた魅せ方ができる。また足元にはベンチも設計し、座って本を読んだり本を一時的に置いたり、植栽を飾るなど様々な場面での活用を可能にした。

パネルもベンチも全て同じ流通材であるラージ合板の規格寸法のものを用いることで、価格を抑えながら、軽い白塗装を施して柔らかい印象を与え、メディアセンターの空間と調和させた。

このような工夫により、新しい新着図書コーナーがそれぞれの本の表情が見える賑やかな「本の広場」となることを期待している。理工学メディアセンターの新しい顔となる新着図書コーナーにぜひ立ち寄っていただきたい。